日府展ニュース

一般社団法人
日本画府
〒176-0023
東京都練馬区
中村北 1-13-18
練馬スカイホーム7F
発行 事務局総務部
発行日 不定期

練馬区の後援も決定

第65回記念日府展特別号

前号でご報告したとおり、昨年の文化庁、東京都の後援に続いて、今年は新たに群馬県、栃木県、長野県の後援が取得できました。群馬県の水墨画部千野曜生理事、同じく栃木県の洋画部鈴木麻紀理事、長野県の日本画部土屋満樹理事のご尽力に敬意を表します。

さらにその後、２月半ばになって、練馬区の後援名義使用も承認されました。これには本部事務の日本画部古池頼子委員の努力が大いに寄与したことをご報告致します。

その結果、合わせて国と４つの自治体からの後援が得られ、２年間の努力は、取り敢えず目標を達成できました。このことが多くの出品者を呼び寄せる事に繋がればと、願っています。

ジュニア部門先行展示計画

もう一つ新しい話題として、今年は新たにジュニア部門の先行展示が行われます。

全国的な少子高齢化の波が日府展にも押し寄せてきて、会員数の減少が続いています。初代理事長の児玉三鈴先生に始まり、これまで先輩諸氏が築いてきた日府展の伝統と文化を、次の世代に確実に伝えていくことは、私たちの重要な使命です。

子供たちは、私たちが忘れてしまったような純粋な心で、遊びながらに絵を描きます。そんな作品を日府展に迎え、私たちも共に学んでいくことで、日府展の活性化、新しい作家の育成が共に図れるのではないでしょうか。

６５回記念展では、正式発足に先立って先行展示を行います。これは第６３回展で写真部が正式発足するのに先立って、その前年に先行展示したことに倣っています。

塚田事業部長をトップにして、積極的な準備作業が行われています。会場でジュニア部門の展示を見て、「来年は自分も」と言う気持ちになってくれる人が、多く出てくれることが狙いです。

右のポスターは、鈴木麻紀洋画部理事の作品です。

今回は洋画部の活動状況を紹介して頂きます。
洋画部の歴史／特徴や、出品者増加に向けた試みなど、
そのアピールポイントを紹介して頂きます。

日府展は当初日本画部のみでした。第10回記念日府展（1963年2月）の後、洋画部、工芸部を加えて総合展に改組することになり、洋画部は13名のメンバーで発足しました。日府展での洋画の展示が始まったのは第11回展（1964年2月）からです。したがって、洋画部は今年で55歳になりますが、いつも青年のような若々しい雰囲気があります。洋画部のメンバーは個性が強く、一つとして同じ画風の作品がありません。

さて、洋画部の活動をご紹介しましょう。2月には、毎年、日府会館で日府展に向けての「作品研究会」を開きます。制作中の作品の写真や、本展のための習作や、スケッチなどを持ち寄り、お互いに「ここがいいね」「こうしたらいいのでは」など忌憚のない意見を述べあいます。洋画部の作品の質を高める効果があります。

日府展東京展では、5月の本展の展示作業には洋画部会員の半数以上が協力しますし、名古屋展の展示にも毎年数名が協力します。事務室の当番、第二事務室の作業などに積極的に取り組んでいただいています。東京展では、第64回からギャラリートークを開始しました。出品者は作画意図や、工夫したところなどを説明し、審査員と評論家の先生の講評を受けます。

洋画部は、毎年、都美術館講堂で、塚田部長、佐藤理事による「市民講座」講演会を開き、市民に美術の面白さを伝える努力をしています。秋には、ギャラリーくぼたで秋季洋画部展を開催します。賑やかな展覧会になることを一般の方や、もとメンバーにも加わっていただき、本展へ出品者の増加をもくろんでいます。

昨年は、長野にお住まいの会員の努力で、2泊3日の妙高高原のスケッチ会を開催しました。夜は、スライドで、画法や画材の勉強をしました。

洋画部の会員間の風通しを良くして、情報の共有と会員の意見の集約を図るために、運営委員会や部会を年数回開催、また、「洋画部だより」を年2～3回発行しています。

【編集後記】昨年は、某素材メーカーの永年に渡るデータ改ざんや、大手自動車メーカーの無資格者による検査など、信じられないような不祥事が、次から次へと発覚しました。世界中へ最高品質の製品を輸出し、経済的発展を続けてきた我が国にとって、物作りの現場で大規模な不正が行われていたことは、驚愕に値することでした。また、大相撲やレスリングなど、スポーツの世界でも不祥事が続発しています。そのような事件が発覚するたびに、責任者が並んで頭を下げて謝罪する風景は、すっかりお馴染みになってしまいました。そんな報道を目にしたとき、必ず私の脳裏を横切るのは、日府展で不祥事が発生したら、立場上、理事長と事務局長が謝罪会見をするのかな、という妄想です。しかしこれは決して笑い事ではありません。日府展も一般社団法人を名乗って活動している以上、それなりに社会的責任（ＣＳＲ）を負っています。セクハラやパワハラ、イジメは勿論のこと、日府展の名誉を傷つけるような行為は、決してあってはなりません。たまに「絵描きなんてそんなもの」と言う発言を耳にしますが、それはどうでしょう。絵描き以前に社会人であることを、私自身しっかりと意識しなければと思っています。（文責浅野）